

# 「シーガー使って今日も快釣」

## 女良圭佑のワンポイントアドバイス

★シーガーフィールドスタッフになってまだ日の浅い女良さんだが、ヒラメ釣りの腕は鈴木新太郎さんのお墨付き。今回は女良さんのヒラメ仕掛けのコツを紹介しよう。図のとおり、使用するラインは「シーガーグランドマックスFX」で、捨て糸部分だけ「シーガー」を使用。太さや長さなどのシステムは鈴木新太郎さん譲り、ほぼ同一である。

「これまでの経験から、安心して使えるのはやっぱりFXです。強度はもちろんのこと、フロロカーボンには柔軟性があるのでスムーズにイワシが泳いでくれます」

●道糸はシーガーPEX8、ハリスはシーガーグランドマックスFX。いずれもこの釣りの定番だ



▲柔軟なハリスはイワシの泳ぎを阻害しない



▲合わせが決まった。浅場なので引きは強烈



▲鈴木さんは撮影や初心者へのアドバイスしながらの余裕の釣りで1キロ超級をゲット



▲連日トップは2ヶタ釣り。当日はシケ後でトップ8枚だった  
▼船中ではこのサイズが多かった



▲女良さんの最大は1.5キロ



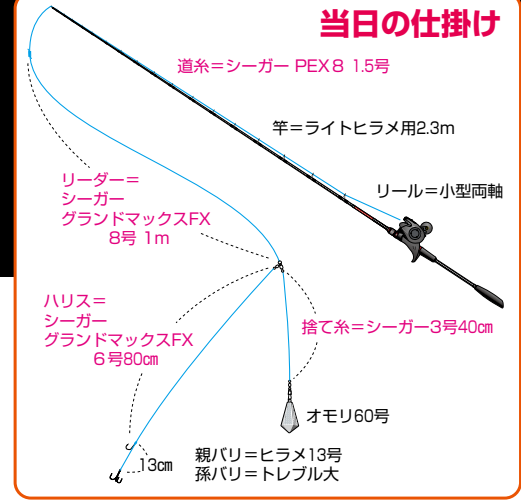
▲飯岡沖の水深15メートル前後の浅場を攻めた



▲2キロ前後のイナダも



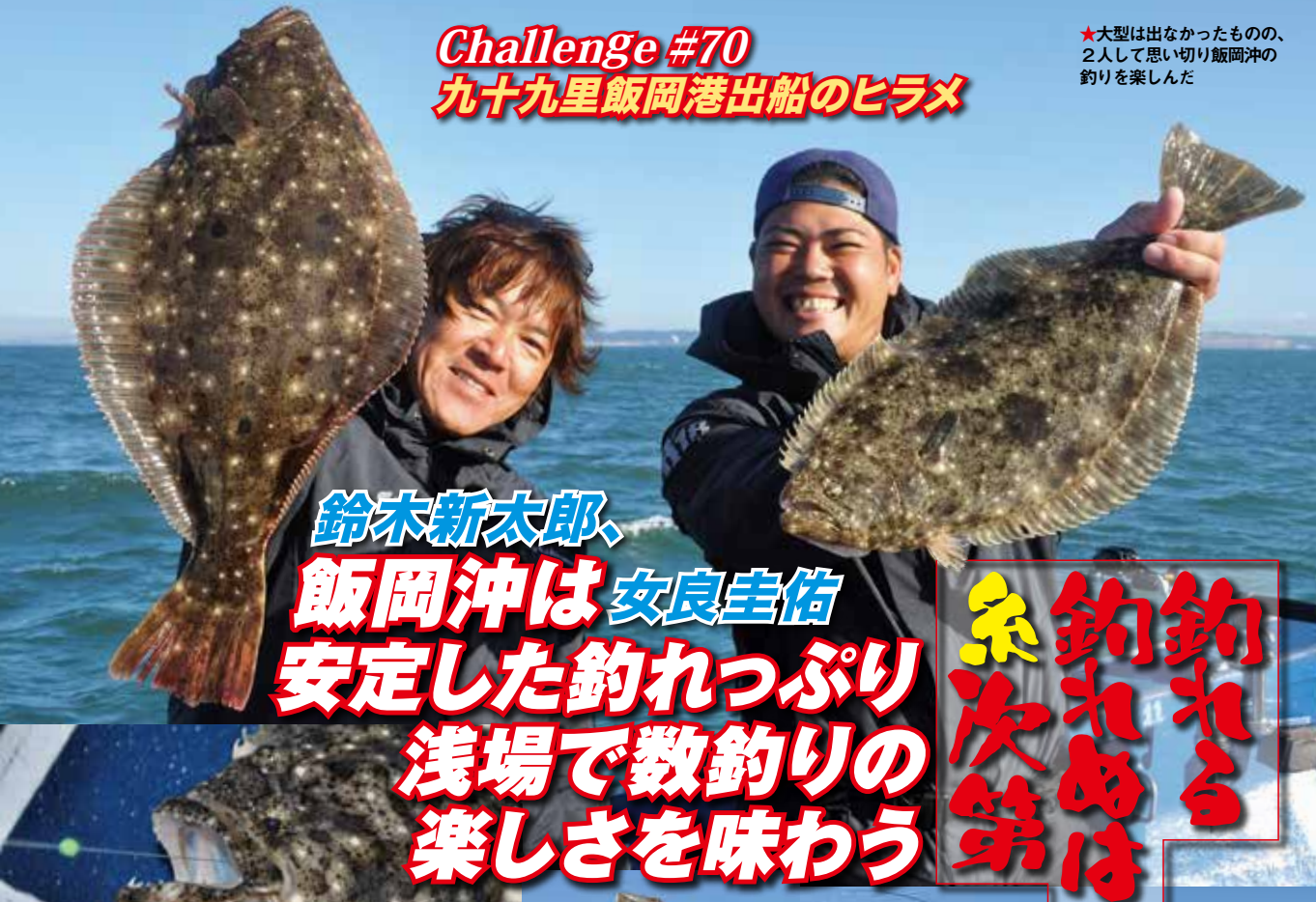
◎女良さんの仕掛けも鈴木さん仕込み



釣果は0.4〜1.5キロ級を1〜8枚、2人もそれぞれ5〜6枚ずつは釣れて土産は十分。「このところ外房、茨城方面はシケが多く、なかなかウネリと濁り潮が取れません。もう少し天候が落ち着けば釣果はもっとのびるでしょう」と鈴木さん。寒ヒラメシーズンも間近、2人のヒラメ釣行はこれから本格化するはずである。

# Challenge #70 九十九里飯岡港出船のヒラメ

★大型は出なかったものの、2人して思い切り飯岡沖の釣りを楽しんだ



## 鈴木新太郎、飯岡沖は女良圭佑 安定した釣れっぷり 浅場で数釣りの楽しさを味わう

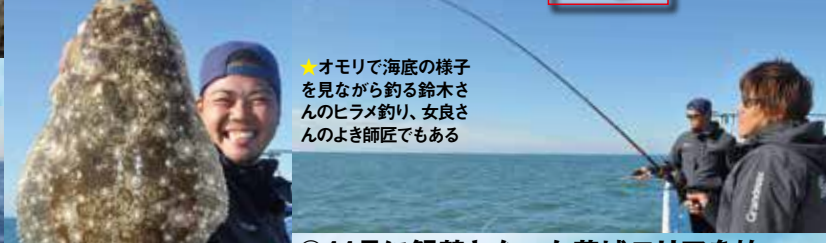
# 釣れる 釣れる 釣れる

糸次第

★二重構造のシーガーグランドマックスFXはハリを飲まれても耐えてくれる強さも



▲飯岡沖の水深15メートル前後の浅場を攻めた



▲この日は女良さんが絶好調だった



★オモリで海底の様子を見ながら釣る鈴木さんのヒラメ釣り、女良さんのよき師匠でもある

●11月に解禁となった茨城エリアを始め、各地でヒラメが絶好調。いち早く6月に開幕となった九十九里飯岡沖もここへきて釣果が急上昇。今回は鈴木新太郎、女良圭佑の両氏が、久しぶりに九十九里エリアへ釣行した模様をお届けする。

トップで2ヶタ釣りが続いている九十九里飯岡沖だけに、鈴木新太郎、女良圭佑の両氏はいつになく気合が入っているようだが、「ここ数日、シケ続きで濁りが入っているのが心配です」と鈴木さん。目下狙っているポイントは港前の水深15メートル前後の浅場。それだけに底荒れや潮色に左右されやすいデリケートな釣り場なのだ。

乗船したのは九十九里飯岡港の隆正丸。連日好調とあって、平日ながら満船のにぎわいぶりだ。左舷ミヨシに仲よく席を取り、5時に出船。15分ほど走って、すぐに投入合図が出る。ウネリは高いが、潮が流れていないせいか、船は横流しでのスタートとなった。開始15分くらいしてから船中ポツポツとアタリが出始め、0.5〜1キロ級が釣れ上がる。

隆正丸はオモリ80号のノーマルスタイルがメインだが、PE2号以下なら60号のライトスタイルも可能。「型より数狙いですから、1キロを超えるサイズならよしとしましょう」と言いながら、2人はライトタックルを軽快に操る。

開始早々鈴木さんにアタリがくるものの、ハリ掛かりしなかったり、巻き上げ途中でのバラシが続く、苦笑いの連続。一方の女良さんもバラシ続きからのスタートだったが、苦戦の末に掛けたのは0.5キロ級の小型で、同じく苦戦に操る。

以後はなかなかハリ掛かりしないヒラメに悶絶しながらも、楽しそうに釣り続ける2人だった。

船は10メートルダチの浅場まで流したが、濁りがきつくアタリは少なく、再び15メートルダチにリターン。「2〜3日前まではよく釣れたんですがね」と船長も困り顔。流し変えるたびに拾い釣りするパターンだったが、徐々に潮も動かなくなると、そのまま納竿の11時半を迎えた。

釣果は0.4〜1.5キロ級を1〜8枚、2人もそれぞれ5〜6枚ずつは釣れて土産は十分。「このところ外房、茨城方面はシケが多く、なかなかウネリと濁り潮が取れません。もう少し天候が落ち着けば釣果はもっとのびるでしょう」と鈴木さん。寒ヒラメシーズンも間近、2人のヒラメ釣行はこれから本格化するはずである。